
魔を討つ燕

キ 8 3

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔を討つ燕

【コード】

N1106I

【作者名】

キ83

【あらすじ】

一人の父親が、娘の仇を討つ為超空の要塞に挑む

(前書き)

暇つぶしに書いた駄文です。考証なんかもしてません。心の広い方のみ進んでください。

目の前には、焼け焦げ異臭を放つ人の形をしたモノ。

これが五年前、妻を亡くして以来男手一つで育ててきた愛娘の成れの果てだと、どうして信じられよう。その焼死体の父、瀬川悠二は泣いた。齒を食いしぼり、決して涙を落とさぬように泣いた。娘を、帝都を焼いた銀色の悪魔、B-29への、それに乗り日本の空を侵す米国人、何より娘を守れない己の無力さへの憎しみを抱いて。

悠二の職は、陸軍航空隊244戦隊所属の飛行機乗りである。

今の乗機、三式戦は酷く気に入らない。

こいつの発動機はむずかしがりやで、調子のいい時がほとんどない。こいつが飛べば、娘を守れたのではないか。そんな事を考えてしまふのだ。娘の死から既に二回空襲があったにも関わらず、悠二は一度も出撃できていない。同僚の中には悠二を蔑む者もいる。曰く、娘が死んで怖じ気づいたのではないかと。冗談ではない、と悠二は思う。三式戦さえ飛べば、あの忌々しいB公を叩き落としてやるのに。そう自分の乗機に愚痴るのが悠二の日課になっていた。そして、今日もまた銀の悪魔はやってくる。警報を聞き、悠二ら航空兵は機体に乗る。だが、やはり悠二の機体だけ発動機がかからない。同僚たちが次々と空に駆け上がっていく中、悠二だけが地上に残されていた。

整備兵が寄ってくるが、悠二は情けなさで怒りでどうにかなりそうだった。俺では娘の仇すら討ってやれないのか。悠二が諦めかけた時、三式戦の音が飛行場に響いた。それは、巣立って行く兄弟を追おうと懸命な燕の鳴き声とも、祖国の空を侵す悪魔に対しての怒りの声とも聞こえた。空へ駆け上がり、悪魔の空域を目指す。

発動機は快調、三式戦はその名の通り、燕のように大空を駆ける。

悪魔、B-29が見えた。見る間に距離が詰まり、破裂にも似た音を立ててすれ違う。三式戦の風防が砕け、悠二の腹から血が吹き出る。B-29を見ると、敵は発動機から火を吹き、速力と高度を落とっていた。

とどめだ。手負いの悪魔を仕留める為、燕が高空を駆け下りる。その時悠二の目に映ったのは、肩から血を流しながらもこちらを狙う娘だった。思わず手を止めた次の瞬間、放たれた機関砲弾によって燕は撃ち抜かれた。最後に一人の父に戻った男の最期だった

……三式戦は後に、五式戦として生まれ変わり終戦までを戦い抜く事になる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1106i/>

魔を討つ燕

2010年10月17日01時52分発行